

喜ぶのが一番好きだった」(太宰治の小説の一節だそうです)であり、「二回会えば友達、二回会えば兄弟」がモットーの黒羽根洋司さんの案内は、個人的にも観光学の研究者としても社是を徹底して実行するものでも感動しました。次回の訪問でも「YKトラベル」をぜひ利用したいです。

帰路の庄内空港に向かう戸村さんの車の中で、高樹陽子さんが聞かせてくださった庄内弁は、歌のように聞き惚れてしまいました。詩にはうといが、もともと言葉に興味を持って居ることもあり、庄内弁の暖かい響きが耳に残っています。

クレードルの小林好雄さんから、庄内地方の特徴や背景を教えてください。私、私の専門分野(観光)に関係するので、大変勉強になりました。クレードルのお仕事は、地域の情報誌を超えて、記録資料として重要な意味を持っていると思います。

最初から最後まで、何から何まで、常にチャームिंगな笑顔できめ細かなおもてなしをしてくださった戸村雅子さんとの3日間は、とても幸せな時間でした。何よりも茨木の

り子氏への愛情と情熱から様々な活動が続けてきていらつしやることに深い尊敬の念を覚えました。

雨の中で眺めた五重塔も素敵でしたし、玉川寺の庭園も美しく、浄禅寺でいただきました新茶屋のお弁当を始め、鶴岡での食事はすべて美味しかったです。やはり「六月の会」事務局のみなさまとの出会いが一番に残っています。「六月の会」と会報の継続を心から願い、再会まで茨木のり子氏の作品を読み続けます。

韓志昊さんは立教大学観光学部教授。専門はホスピタリティ産業における小規模ビジネスのマーケティングやマネジメントに関する研究など。



左が韓志昊さん、右は金智英さん。庄内空港にて。

茨木のり子からみる男女平等参画／男女共同参画との関わり

一般社団法人 洸楓座
代表理事 佐藤 建吉

て文学や教育そして人々の生き方に大きな影響を与えた。それは、令和の現代にも生き残っている。
彼女は23歳で結婚、48歳で最愛の夫と死別、79歳で永眠した。彼女の人生は、次の3つの時代に分けることができる。

0歳～23歳 未婚時代／23歳～48歳 結婚時代／48歳～79歳 寡婦時代

これは、女(女性)の生き方においての分け方ともいえ、24年(二周り)近くが、一時代となっている。彼女は、子育ての経験はしていないが、それも観察者としての女の生き方を演じていた。

茨木のり子は、素直な想いを遠慮せず表現した書き手であった
……変革の原点となる

男女の立場の違いは、大きい。が、その立場も時代とともに変わらなければならぬ。「男女平等参画／男女共同参画」は、現代に求められるキーワードといえる。のり子の時代には、これは国が後押しする対象ではなかった。それは、運動家によつ

て進められた。

もはや／できあいの思想には倚りかからず／もはや／できあいの宗教には倚りかからず／もはや／できあいの学問には倚りかからず／もはや／いかなる權威にも倚りかからず／いかなる生きて／心底学んだのはそれぐらい／じぶんの耳目／じぶんの二本足のみで立つていて／なに不都合のことやある

倚りかかるとすれば／それは／椅子の背もたれだけ

これは、のり子の代表作『倚りかからず』という詩である。のり子は、自分の考えと立場を素直に、しかし社会との対比として述べ、変革を求める自身の姿を表現している。これは、「男女平等参画／男女共同参画」への意識ともいえる。

茨木のり子は、真善美を伝えたかった……いまをみつめる原点を教える

多感な青春時代を台なしにした戦争。そしていまの子どもたちは、おそらくコロナをそう思う。茨木のり子たるを表現した作品が、代表作の『わたしが一番きれいだったとき』である。

わたしが一番きれいだったとき
／街々はがらがら崩れていつて
／とんでもないところから／青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき
／まわりの人達が沢山死んだ／工場で 海で 名もない島で／わたしはおしゃれのきつかけを落としてしまった

わたしが一番きれいだったとき
／だれもやさしい贈り物を捧げてはくれなかった／男たちは拳手の礼しか知らなくて／きれいな眼差しだけを残り皆発つていった

わたしが一番きれいだったとき
／わたしの頭はからっぽで／わたしの心はかたくなで／手足ばかりが栗色に光った／わたしが一番きれいだったとき／わたしの国は戦争で負けた／そんな馬鹿なことがあったとき

鹿なことつてあるものか／ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき
／ラジオからはジャズが溢れた／禁煙を破ったときのようにくらくらしながら／わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

わたしが一番きれいだったとき
／わたしはとてふしあわせ／わたしはとてふしあかん／わたしはめつぼうさびしかった

だから決めた できれば長生きすることに／年とつてから凄く美しい絵を描いた／フランスのルオー爺さんのように／ね

国語の教科書にも載ったこの詩は、戦時中という非常時のとき（時代）を思い出して書いたものである。時代の不都合さを、世間と自分、そして男女のしぐさまでを、滑稽さの中に盛り込んで語っている。戦争から75年が過ぎた今年は、コロナという想定外の禍が、突然起こった。その犠牲には、若者やふつうの人がいる。このふつうの人々こそが、犠牲を受けた階層であり、早く本来を取りもどさなければならぬ。

今回主題とする「男女平等参画／男女共同参画」は、コロナと同じく多くの人々が、いまこそ意識しなければならぬ課題である。そのために、のり子の『わたしが一番きれいだったとき』は、必要な動機づけを与える。

茨木のり子には、凛という言葉がふさわしい……上品さが表現されている

変革には、強さと激しさ、そしてまた上品さが必要である。『自分の感受性ぐらい』という詩がある。

ばさばさに乾いてゆく心を／ひとのせいにはするな／みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを／近親のせいにするな

／なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを／暮らしの

せいにはするな／そもそまがひ
よわな志にすぎなかつた

駄目なことの一切を／時代のせい
にはするな／わずかに光る尊厳の
放棄

自分の感受性くらい／自分で守れ
／ばかものよ

ここで語っているのは、自分で
あり自分へのメッセージではあるが、
明らかに世間へのエールである。他
の詩作もそうであるが、力強さと激
しさが凝縮している。人を傷つけな
い上品さが滲みわたっているかのよ
うである。それは、最近のSNS
でやり取りされる中傷や罵声の類と
は一線を画す清々しい運動の見本と
なるだろう。

茨木のり子は、女の生き方をシゲ
キする……共感と同感になる

『清冽』というのり子の生き方や
詩作（詩篇）について集大した後藤
正治による本がある。その最後の
あとがきに次のような^{かけはし}梯久美子の、
茨木のり子の詩の引用文がある。

古歌

茨木のり子

古い友人は／繙帯でも巻くよう
に／ひっそりと言う／「大昔か
ら人間はみんなこうしてきたん
ですよ」

素直に頷く／諦めきれないこと
どもを／みんななんとか受けと
めて／受け入れてきたわけです
ね

今ほど古歌のなつかしく／身に
沁み透るときはない／読みびと
しらずの挽歌さえ／雪どけ水の
ようにほぐれきて

清冽の流れに根をひたす／わた
しは岸辺の一本の芹／わたしの
貧しく小さな詩篇も／いつか誰
かの哀しみを少しは濯^あうこと
もあるだろうか

「わたしの貧しく小さな詩篇も／
いつか誰かの哀しみを少しは濯^あ
うこともあるだろうか」

これは、男女平等参画／男女共同
参画を推し進めようとする多くのひ
と、とくに女性のひとのところにひ
びきそうだ。のり子の立場を「清冽」

という二文字で書きはじめ、その本
性を述べている（詳しくは原文を参
照。後藤正治、『清冽』、p.293）。

共感と同感とは、男女平等参画／
男女共同参画の拡がりには重要であ
る。共感とは empathy であり同感とは
sympathy である。詩の一句、一文、
そして詩作のつくる共感とは、同感を
つくる。それは、社会へのひろがり
となる。のり子が、全霊を通して、思
慮深く著作し遺したものは大きい。
それを引き継ぎ、その拡がりを、い
ろいろの表現方法により舞台から伝
えたい。また、いまや、舞台でのリ
アルのほか、オンラインでも各地の
各人に伝えられる時代になってい
る。

結びとして、茨木のり子の詩や
詩編に共感と同感を覚える人々は多
い。大学の入学式や卒業式でも、そ
して市民活動の中でも、しばしば取
り上げられる。若い人にこそ、茨木
のり子のメッセージを知ってほしい。
その例をインターネット検索した結果
から一部を挙げておきたい。

- http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/president/speech/2017/170407_1.html 京大
- <https://www.otsuma.ac.jp/news-other/info/34953/> 大妻女子大
- <https://www.city.yachiyo.chiba.jp/content/000122130.pdf> 八千代市
- <https://www.azareana-navi.jp/event/pm2/> 静岡市
- <https://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/ohoshi/pdf/hamoriora030.pdf> 四日市市
- <https://www.library.ferris.ac.jp/dokupuro/archives/1003/100556.html> フェリス女学院大学

沓楓座主催——
「茨木のり子詩と音楽
2021 冬／歳月」のチ
ラシ

